

# 平成 2 1 年度予算下水道関係行政経費（新規）の概要

（平成20年12月記者発表）

## 1. 下水道分野における国際協力活動の支援に関する調査検討経費

世界の水・衛生問題の解決や地球温暖化対策の推進に向け、途上国等における持続可能な下水道システムを提案、普及させること等を目的とする「下水道グローバルセンター」（仮称）の活動に必要な人材、技術等の情報共有プラットフォームの構築やCDM（ ）事業の展開のためのモデル事業的な支援などを行う。

クリーン開発メカニズム：先進国が途上国で温室効果ガス削減事業に投資し、削減分を目標達成に利用できる制度。

## <下水道グローバルセンター（仮称）の概要>

（下水道分野における国際協力活動推進会議（座長：大垣眞一郎 東京大学大学院教授）より提言）

### 1. プロジェクト形成の段階から、産学官の知識や経験を結集し、計画・建設から管理・運営に至るまで持続可能な下水道システムを提案。

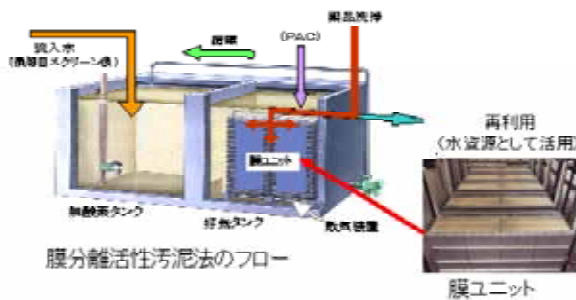
プロジェクト形成の段階から、官学が中心となった下水道の計画、維持管理、経営のための人的・技術的・資金的支援を行い、民間事業者等により建設される下水道システムの持続的な運営を実現。我が国の優れた経験や技術が効果的に活用されるよう、プロジェクトの内容を検討。国際協力機関等と連携。

### 2. 対象国ごとの戦略形成、人材育成、情報提供活動

1. の内容も踏まえ、官学による各種交流活動、ODA活動等について、対象国ごとに統一的な戦略を検討し、関係機関に提案。対象国ごとに、国際協力活動のキーマンとなる人材を育成。国・地域ごとの基礎情報や国際協力活動に有用な人材などの各種情報を集約・提供。海外への技術等のPRを目的とした広報活動を積極的に展開。海外の類似団体との国際的ネットワークを構築しつつ、国際協力活動の更なる充実に向けた方策を検討。

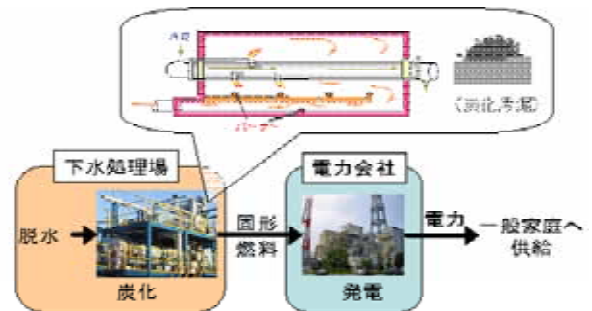
## <国際協力において活用が期待される我が国のさまざまな技術>

### > 膜処理技術



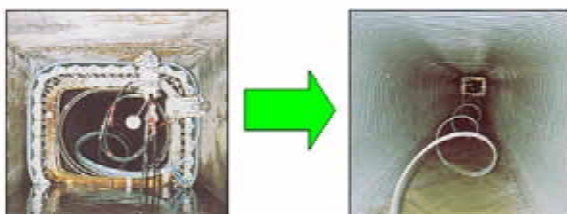
### > 下水汚泥の炭化技術

- ・汚泥燃料を製造する技術
- ・我が国独自の取り組み



### > 管渠の更生工法

プラスチック材により既存管きよの内面を被覆し、施設の長寿命化を図る技術。



### > 散水ろ床法

我が国では近年ほとんど採用されなくなったが、昔は多くの実績があり、部分的な改良も含め、海外の下水道整備に貢献できる可能性がある。



2. 需要先と連携した下水中のリンの回収、資源化のあり方に関する検討調査経費

国際的なリンの需要の拡大や産出国の輸出規制等による供給の縮小により、リンの国際価格が急騰しており、下水道に対するリンの供給の関心が高まっているが、下水道管理者における需要側の情報不足等によりその資源化状況は極めて低い。このため、下水道管理者が需要先と連携したリンの供給施策のあり方を検討するための指針を策定する。

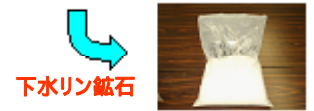
下水汚泥のマテリアル利用は着実に進展し、約7割に至っているものの、汚泥中の有機物の資源・エネルギーとしての利用は一部に限られている。下水道には我が国のリンの輸入量の14%が流入しているが、コンポストとしての利用の1割に限られている。

<リンの回収例>

下水汚泥から下水リン鉱石を回収し、肥料として活用。



リン回収施設(実証試験プラント)(岐阜市)



下水リン鉱石



3. 都市の閉鎖性水辺空間の環境改善手法検討経費

良好な都市の水辺空間の創出に資することを目的とし、閉鎖性の水辺空間の目標設定、外部からの導水による生態系への影響評価手法、事業連携による都市内のお濠などの水質改善方策等について検討する。

アオコの発生により  
異臭のする水辺空間



水辺空間の環境改善イメージ



資料提供: 川崎市



資料提供: 神戸市

小規模な閉鎖性水域の環境改善  
 ・下水再生水の送水  
 ・合流式下水道の改善 等

うるおいのあるまちづくりへの貢献  
 ・安らぎの場の確保  
 ・ヒートアイランド対策  
 ・コミュニティの形成 等